

津波から命を守るために

津波から我が身を守るには、避難する以外に方法はありません。避難は1分1秒を争います。どのような場合に避難すればよいかを把握しておくことはもちろんのこと、いざというときに、しっかりした避難行動がとれるよう下記のポイントを押さえておこう。

避難のための重要ポイント

地震の揺れだけで自己判断するな！！

揺れがそれほど大きくなくても大津波が押し寄せるケースが過去にあります。体感した揺れの大きさではなく気象庁の津波情報に注意してください。

「津波はこない」という話を信じるな！！

昔から日本は津波はこないと言われていましたが、何度も津波はやってきています。「瀬戸内海では津波がこない」と思っていませんか？根拠のない話にまどわされず気象庁の情報に耳を傾けましょう。

津波は何度も来る！！

震源域からの津波は一つでも沿岸部での入射・反射・湾内振動などがあるため、何波もの津波が発生する。第一波が去ったからといって海岸へ戻ることは絶対に禁物である。一度避難したら避難解除の指示があるまで家に戻らないことが重要である。

車を使って避難するな！！

避難しようとする車で道路が渋滞し津波にのみ込まれる可能性が大きいため、できるだけ車を使わず避難しましょう。

海岸にいたらすばやく高い所へ！！

避難指示や避難勧告を待たず、一刻も早く逃げてください。津波警報で発表されている津波の高さ以上の高台、建物を目指し避難しましょう。

川の側にいた場合流れに対して直角方向へ！！

津波は川をさかのぼるため、上流の方向へ逃げても追いかけてくるため、川の流れに対して直角方向の高台、建物に避難しましょう。

「遠い」所より「高い所」に逃げる

すでに浸水が始まった場合などは遠くに逃げるより、より高い建物を目指し避難しましょう。ただし海岸からはできるだけ離れ頑丈そうな建物を選ぶ必要があります。

注意報でも甘くみてはいけない！！

注意報では甘くみてしまうケースがある。予想される津波の高さが20cm～1mまでならば、津波注意報の対象なのだが、仮に50cmの津波が来れば小さな子供はもちろん、大人でも流される可能性があるため、注意報だからといって軽視せず十分な注意を図り避難しよう。